

# 自治体キャラバン(最終)市川昭男山形市長と懇談

## 集団的自衛権行使容認は 平和都市宣言に逆行 市川市長が回答

### 市川市長が回答

「憲法を守り生かす」ことを掲げた憲法キャラバンの一環の自治体キャラバンは山形地域で終盤を迎えました。12月18日には山形市を訪れ、市川昭男市長が対応しました。市長は、「憲法を守りいかす自治体運営」「安定した雇用確保の強化」「福祉灯油の実施」「米価暴落の対応」「災害対策の強化」「自治体非正規職員の処遇改善」などの項目に沿って、いねいに回答しました。

この中で、集団的自衛権行使容認について、山形市の平和都市宣言に逆行するもの」と、9月の定例市議会ですした基本的態度を改めて明瞭にしました。また、雇用の安定では正規雇用へ転換した場合、30万円の助成を行っていること、さらに福祉灯油については県が実施することになったことをつけ、山形市でも実施すると述べました。



市川市長へ要請する県労連・山形地域労連のメンバー

## 県が福祉灯油を実施 県労連の要望実現

県労連は10月に行った憲法キャラバンでの県への要請の中で、福祉灯油の実施を求めていましたが、県はこのほど、福祉灯油を実施することとなりました。県議会の12月定例会で、吉村知事が実施を表明しました。知事は「灯油価格が高止ま

りし消費税率の引き上げや年金支給額の引き下げともあいまって、低所得世帯の暮らしを取り巻く環境は一層厳しさを増しています。民生児童委員協議会ほか様々な団体から灯油購入助成事業について要望をいただいた」としています。

## 挑戦に賞賛 全労連東北ブロック・オルグ養成講座で 山形県参加者が奮闘ぶりを報告

全労連東北地協は12月21日、秋田市内で「オルグ養成講座」を開催し東北各県から38人が参加しました。山形県からは3名が参加しました。

### 山形公務公共一般労組・西村山分会 分会長 照井 歩さん

全労連の根本副議長が全国の組織拡大の教訓や全労連の方針、高橋副議長が全労連共済の到達と方針を講演。各県の参加者からも報告があり、2日間の討論で深められました。

私はサガエスイミング未払賃金請求裁判について発言しましたが、たくさんの方々から力強い握手と励ましの言葉を頂戴し、あらためて労働組合活動の価値を実感しました。

各県の報告の中でも、様々な労働問題の事例が取り上げられていましたが、数ある労働者のたたかいを、社会全体の問題として普遍化していくためには、全国で

山形県からは、専従活動家や退職者に頼らず自律的に再生産する地域労組建設への挑戦、パートへの変形労働時間適用の矛盾等が争点の裁判闘争について報告しました。

組織拡大をすすめていくことが求められます。報告の中でも、組織増勢の成功事例として、「1人が10人と対話」「1人に10回対話」など、「対話」の重要性が指摘されていましたが、私も山形で、より多くの労働者に、県内の労働環境の実情を認識してもらうために、もっと積極的に「対話」を行っていかねばならぬと感じました。

### 山形公務一般労組・北村山分会 分会長 富樫 和子さん

以下に、2名の参加者の感想を掲載します。

「オルグ養成講座」といういかめしい会議に、日程が空いていたというだけで参加しましたが、深く楽しく交流できました。各県15分の報告の持ち時間を、佐藤完治さんが自分の言いたいことを後にまわして3分の1が与えられてできた北村山分会の報告が嬉しいことに好評でした。驚いたことに、西仙北高校はデนมーカーに生徒を派遣していること。福祉国家について



東北各県からオルグ養成講座に集まった参加者

「オルグ養成講座」といういかめしい会議に、日程が空いていたというだけで参加しましたが、深く楽しく交流できました。各県15分の報告の持ち時間を、佐藤完治さんが自分の言いたいことを後にまわして3分の1が与えられてできた北村山分会の報告が嬉しいことに好評でした。驚いたことに、西仙北高校はデนมーカーに生徒を派遣していること。福祉国家について

の本のタイトルを聞き、メモしていました。また分会員自身が調べ報告する労働相談連続講座についても、「それだと理解するだろうね」と感心していました。

また、同室になった岩手の若い看護師さんとは、3年後の「日本母親大会in岩手」で会う約束をしました。 「うたごえ」の人もいて、交流会では本格的なソロが次々と。みなさま、人生豊か!